

## 基本施策

### 1 新たな森林経営管理の推進

- (1) 新たな森林管理システムの推進
- (2) 間伐等の森林整備及び路網の整備
- (3) 生態系や景観に配慮した伐採・搬出技術の確立
- (4) 管理放棄された里山林や竹林の整備とその仕組みづくり
- (5) 奥山における森林施業の仕組みの確立
- (6) 林道の維持管理及び災害復旧対策の推進

### 2 あらゆる場面で木を使うプロジェクトの推進

- (1) 木材生産の効率化と生産量の拡大
- (2) B材、C材中心からA材をはじめ多様な需要に応える生産構造への転換
- (3) 公共施設における木材の利用促進
- (4) 薪の生産及び利用の促進
- (5) 生産から流通・加工・利用に至るまでの関係者の連携体制の構築
- (6) 木地師文化の継承及び新たな木工文化の創出と木育の推進

### 3 生物多様性や自然景観の保全を重視した森林づくり

- (1) いきものの生息に配慮した森林づくり
- (2) 「100年後に残したい鈴鹿の森」の選定と保全・活用
- (3) 多様な広葉樹材の活用と広葉樹林の保全・育成
- (4) 森里川湖のつながりを再生する森林づくり
- (5) 鈴鹿10座やエコツーリズムなど多様な利用価値のある森林づくり
- (6) ニホンジカの被害対策をはじめとする獣害対策の推進
- (7) 全国植樹祭の植樹イベントを活用した森林づくりの実践
- (8) 巨樹・巨木の保全

### 4 エコツーリズムの推進と地域資源の活用

- (1) 東近江市ならではのエコツーリズムの確立
- (2) 鈴鹿10座の保全と活用
- (3) 林業遺産に認定された木地師文化の発信と活用
- (4) フットパスプロジェクトによる地域資源の発掘とその活用

### 5 次代の森林づくりを担う人材育成と環境学習

- (1) 森林づくりの専門家の育成
- (2) 東近江市の多様な森林をいかした環境学習の推進
- (3) エコツーリズムガイドの養成
- (4) 森林における防災・減災の普及啓発
- (5) 「(仮称)鈴鹿の森ビジターセンター」における自然、暮らし、文化などの情報収集と発信



鈴鹿10座雨乞岳でのエコツアー

## ビジョン推進のための仕組み

### 1 東近江市100年の森づくり地域ワークショップ

- 地域住民や関係者が、課題を共感できるエリアで、将来に向けた森林づくりや資源利用などについて話し合う地域ワークショップを開催
- ワークショップにおいて、地域ごとに森林のゾーニングや施業方針を作成し、今後の森林づくりや資源利用に活用

### 2 地域住民の参画による森林のゾーニングシステム導入

- 地域住民の参画により、これまでの空間的なゾーニングだけでなく、時間的な要素も取り入れた市独自のゾーニングシステムの導入

### 3 「森林・林業+X(エックス)」プロジェクトの推進

- 森林・林業の枠にとらわれず、観光、教育、健康福祉など幅広い分野と連携
- 新たな価値を森林に付加し、ビジネスとして成長・発展させていくプロジェクトの推進

### 4 東近江市100年の森づくり会議

- 本ビジョンの進行管理や目標の達成状況の評価を実施
- 今後100年を見据えた森林づくりや資源利用等について語り合い、多様な主体の連携・協力による取組機運を醸成

### 5 財源の確保とその仕組みづくり


- 既存の財源と合わせて森林環境譲与税を活用
- 寄附などを活用した地域独自の財源の活用

本計画の「基本施策」及び「ビジョン推進のための仕組み」の達成状況を評価するため、数値目標を定めます。また、数値目標の達成に向け、5年間の実施計画を定め、ビジョンを推進します。

# 東近江市 100年の森づくりビジョン - 概要版 -



令和2年1月

 東近江市  
HIGASHIOMI

# 東近江市100年の森づくりビジョン 概要版

東近江市100年の森づくりビジョンは、地域住民をはじめ多様な主体が参画することにより、市域の56%を占める森林を有効に活用し、100年先を見据えた健全な森林づくりや資源利用を進めるための指針です。

## 森林づくりのあるべき姿

森林づくりには数十年以上の年月を要し、時には100年を超える超長期的な視点も必要です。本ビジョンでは100年先を見据えつつ、おおむね100年先を目指した森林づくりのあるべき姿を掲げます。

- 1 森里川湖のつながりをいかし、いきものの息吹が感じられる健全な森林づくりが行われている。
- 2 森林や山村の様々な資源が有効に活用され、地域で資源や資金が循環する仕組みが構築されている。
- 3 地域住民や多様な主体が参画し、今後100年先を見通して地域の森づくりや資源利用について自ら考え、共に取り組んでいる。



## ビジョンの概要

### 1 ビジョン策定の背景

本市は、市域の56パーセントを森林が占め、森林の保全や林業の振興を市政の重要課題として位置づけています。第2次東近江市総合計画前期基本計画では、「森林や里山が適切に保全管理され資源を利活用するまちをつくります」としており、また、第2次東近江市環境基本計画では、重点プロジェクトの中で「100年の森おこしビジョンの作成」と「森林整備の合意形成の推進」を盛り込んでいます。これら計画に基づき、平成30年1月に「鈴鹿の森おこし」推進ワーキンググループを設置し、「(仮称)東近江市・100年の森づくりビジョン(素案)」を策定し、「あらゆる場面に木を使うプロジェクト」や「東近江市らしい新たな森づくりプロジェクト」に取り組んできました。

### 2 ビジョンの特色、計画期間及び対象区域

#### (1) ビジョンの特色

森林・林業政策を中心としつつ幅広い分野についても対象

- エコツーリズムや観光など森林に関わる分野を網羅
- 地域が主体的に森林・林業政策に取り組んでいくべき考え
- 地域住民や関係者によるワークショップで森づくりや資源利用を検討
- 地域住民や関係者の情報や議論によるきめ細かな森林のゾーニングを実施

- (2) 計画期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日
- (3) 対象区域 東近江市全域



鈴鹿10座桃子ヶ口西峰から東近江市平野部を望む

## 現状と課題

### 1 東近江市の森林・林業の現状

- (1) 東近江市の森林の現状
  - 森林面積:21,847ha(市域の56%) ○民有林:97%
  - 人工林率は33%で間伐対象の8～10齢級がピーク
  - 人工林の55%が10齢級以上の伐採利用が可能な森林
- (2) 生物多様性保全から見た東近江市の森林
  - 地質や気候の違いによる多様な植生
  - 鈴鹿から琵琶湖まで森里川湖のつながり
  - 多様ないきものを育んできた里山
  - 鈴鹿山脈にはイヌワシが生息できる潜在的環境がある
  - 由緒ある巨樹・巨木を地域住民が主体となって保全
- (3) 木材をはじめとする森林資源利用
  - 東近江市の木材生産量は年々増加(H25:3,230m<sup>3</sup>→H30:7,851m<sup>3</sup>)
  - 東近江市産木材を活用した木造公共施設の整備
  - 広葉樹をチップや家具に利用
  - 「木地師文化発祥の地東近江市小椋谷」が林業遺産に認定
- (4) 里山の保全と活用
  - 里山は資材や道具の調達及び多様な動植物の生息・生育の場
  - 里山保全活動団体などによる活発な里山保全活動の実施
  - 東近江市にぎわい里山づくり条例の制定と活動団体の認定
- (5) エコツーリズム
  - 東近江市エコツーリズム推進協議会を設置
  - 鈴鹿10座の保全・活用プランの策定
  - 鈴鹿10座ビジターセンターを設置
- (6) 里山林を活用した環境学習
  - 森林環境学習「やまのこ」事業 ○里山保育の実施

### 2 東近江市の森林・林業の課題

- (1) 森林の適正な経営管理が不十分
- (2) 地域における森林資源の利用が不十分
- (3) 森林における生物多様性の劣化
- (4) 森林と人との関係の希薄化
- (5) 森林や自然環境保全の重要性への理解が不十分

### 3 東近江市の森林行政を取り巻く課題

- (1) 地域が主役となって森林・林業の課題解決に取り組めていない
- (2) 今後100年先を見据えた森林づくりの取組ができていない
- (3) 地域住民や地域の森林・林業関係者が森林・林業政策に参加できていない
- (4) 森里川湖のつながりをいかした取組ができていない
- (5) 多様な主体の参画による森林づくりの取組ができていない



間伐が行われていない人工林

## 基本理念

### 1 地域(ローカル)の視点で森林・林業を考える

森林や林業の課題を実感しやすい集落や自治会などのエリアで情報共有や議論を行い、地域住民や森林・林業に関わる多様な分野の人々の参画による取組を進めます。

### 2 100年先の未来を見据えたビジョンづくり

地域の森林の実情や地域住民の思いなどがビジョンに反映され、次世代にも引き継いでいけるような仕組みづくりを行います。

### 3 プロセスの重視と柔軟な対応

森づくりの具体的な実践活動に当たっては、そのプロセスを重視し、「自分ごと」として捉えながら参画していきよう、地域の実情を踏まえ柔軟に進めます。

### 4 森里川湖のつながりをいかした森林づくり

鈴鹿山脈から琵琶湖までを包括する特色をいかし、水の流れのつながり、モノの移動のつながり、人と人とのつながりの再生を目指した森林づくりを展開します。

### 5 森林・林業 + X(エックス)

エコツーリズム、観光、健康福祉、教育など新たな価値(X・エックス)を森林に付加し、積極的な活用により、新たなビジネスとして成長、発展させます。

